

令和2年度第2回茂原市地域公共交通会議 議事概要

日 時 令和2年12月24日(木)
午後2時15分から午後3時まで

場 所 茂原市役所1階 101会議室

出席者 委 員 17名

西條委員、富塚委員、大木委員、鶴野委員、永田委員、土屋委員、田中委員、梅田委員、渡邊委員、鶴飼委員、山田(隆)委員、久我委員、関屋委員、渡辺委員、岩下委員(代理:堀井)、山田(広)委員、藤井委員

事務局 5名

都市計画課 石崎課長、螺良補佐、野村係長、渡辺副主査、市東

会議内容(進行:螺良補佐)

1 開会 午後2時15分

要綱第7条第2項に基づき、出席委員17名で過半数に達しており会議成立。

2 会長あいさつ

3 議事

(1) デマンド交通「ふれあい」・市民バス「モバス」の利用状況について

<質疑>

委 員:最近の運転免許証の返納状況はどうなっているか。

委 員:令和2年9月末現在での運転免許証返納者数は千葉県内で2万351名が自ら運転免許証を返納していて、前年度比で600件減少である。茂原警察署管内で415名が返納していて、前年度比で50件減少である。

委 員:高齢者が増えていき運転免許証返納者数も増えていることが、デマンド交通の利用者が増えていることのベースになっていると思います。最近、NPOによる有償運送等もありますが、基本は行政が公共交通に取り組むことになる。その中で隙間をNPOが補ってくれば良いと思うが、頼りすぎるのもよくないので、その兼ね合いも検討していただきたい。

委 員:高齢者の意見等で何かありますか。

委員：特にない。

委員：高齢者が増える中で、社会福祉協議会や自治会等の様々な形で、高齢者の手助けをしているが、いろいろな角度や立場で対応を進めてほしいと思う。

(2) 令和元年度地域公共交通確保維持改善事業費補助金における事業評価について

<質疑>

委員：地域公共交通確保維持改善事業・事業評価の⑤目標・効果達成状況のところ、市民バスが B 評価、デマンド交通も B 評価とあるが、デマンド交通の評価を A 評価で申請したほうが良いと思う。コロナ禍で公共交通の利用状況が全体的に下がっている中で、利用者登録数の目標 750 人というのは利用を広げるための目標値、それに対して実際に利用した人数が実数値として出ているので地域の人たちの利用促進に寄与していると言える。見かけ上の登録者数よりも実質的に伸びたところを評価するという形をしっかりと示していくべきである。コロナ禍でも地域の足として確実に使われる交通手段であるという方向性が示されていることに自信を持った方が良いと思う。他の自治体の利用状況を見ているが、コロナ禍で維持できているところはほとんどない。茂原市がコロナ禍に強かった理由を推察すると、通常、デマンド交通では相乗り率をあげて収支を改善しようとするのが行政の考え方であるが、マイタクシー化のような状況で 1 人利用されることが多かったのかと思う。よって、自分だけの移動手段として活用できると地域の人々のイメージがあり、コロナ禍に適合したのかもしれない。このことがコロナ禍に強い交通手段といえるかどうかは、今後の公共交通の利用率をあげていくことを考えていくと難しいところではあるが、地域の足として確保できたという点で A 評価にして申請し、運輸支局がどう捉えるかというところを図ってみてもよいと思う。コロナ禍でなかなか実績が上がってこない状況で、このような実績が出たということは、地域の人を使うことで公共交通が成り立つということの良い例でもある。公共交通は使わないとなくなるというのが大前提である中で、今回のこの実績が出たところを、評価してはどうかと思う。

事務局：利用登録者数の目標値が 750 人と設定したが、結果 725 人で届かなかったというところで、B 評価としたが、デマンド交通は比較的、新型コロナウイルスの影響も受けずに引き続き、利用していただいたというところで、それだけ必要とされている交通手段であるともいえると思う。A 評価ということで、承認をいただけるのであれば A 評価としたうえで、運輸支局へ提出したいと思う。

採決の結果、賛成多数により承認

4 その他

委員：公共交通を進めていく上の地域公共交通計画を策定する際に、交通事業者だけではなく、いろいろな手を借りて総動員でやる形の計画作りを自治体で検討しようと法改正で動き出している。網形成計画を策定している自治体で、中間年や完成年の達成状況を見てから変えていこうというところもあれば、茂原市のように公共交通計画が最終年度の状況で、新たな計画作成に移行していこうとするところもあるが、どのタイミングで策定するかが大事になってくる。その中で、茂原市にとって、バスやタクシーの交通事業者でカバーできて、公共交通を維持できるところやうまくいかないところを再編するなりして、計画の中にどう位置づけるか。そのことを把握したうえで、交通事業者のサービスレベル（1日の便数等）で地域の人が移動することが難しい地域は、NPOに力を借りて、その地域の運行を補ってもらえるのか、市民が協力して有償運送で運行するのか、あるいは、自治体が車両を購入して運行するのか等のいろいろなやり方がある。地域の交通を担う事業者の足枷となつては意味がないので、地域全体で、新たな公共交通計画を策定するための調査をする中で、現状の位置づけを、それぞれの地域にどういう交通が見合うのか検討していただきたい。

免許返納者が増えてくると思うが、地方都市に来れば来るほど、免許を手放さないで80歳ぐらいまで運転している傾向がある。また、85歳ぐらいには施設を利用する人が多くみられ、実質、5年間程度しか公共交通を利用しない地域が非常に多い。この5年間に焦点を当てて考えていくと、計画の中で背景として将来の人口推計や高齢化率の推移も合わせて考えていかないとなかなかうまくいかない。もちろん、運転することが悪いわけではないので、安全で運転できることが、ある程度確保できるのであれば問題ない。公共交通で外出する機会を増やして健康寿命を延ばそうとする考え方もあるが、移動しないで生活できるように生活圏の中にスーパーや病院を移動する考え方もある。生活圏での移動だけで地域間の移動が減少していくような地域が市内であっても良いと思う。このような様々な形が考えられる中で、どう公共交通を、少しずつ進めていくのか。このようなことを地域公共交通計画の策定を進めていく上で、検討すると良いと思う。

委員：12月22日付で関東運輸局がプレリリースした資料を配布させていただきましたが、資料に記されているようにバス、タクシーは引き続き厳しい経営環境におかれている状況である。当会議の委員皆様はじめ、関係者の皆様にはバ

ス、タクシーのコロナ禍における実情を理解していただき、公共交通の役割を果たせるようご高配ご支援を賜りますようお願いしたい。

5 事務連絡

令和2年10月に新型コロナウイルス感染症により影響を受けている市内の公共交通事業者に対し、感染症防止対策及び事業継続を支援することを目的として、茂原市公共交通事業者支援金を交付したことを報告。また、前回の会議概要について、訂正等があれば令和3年1月15日（金）までの連絡を依頼。

また、今年度の会議は当会議で最後であることと次回の会議開催時期は、来年の6月頃を予定していることを連絡。

6 閉会 午後3時